

## 大紛糾の「都立高校入試」乱暴すぎる改革の中身 「有利な人」「不利な人」を生む驚きのカラクリ

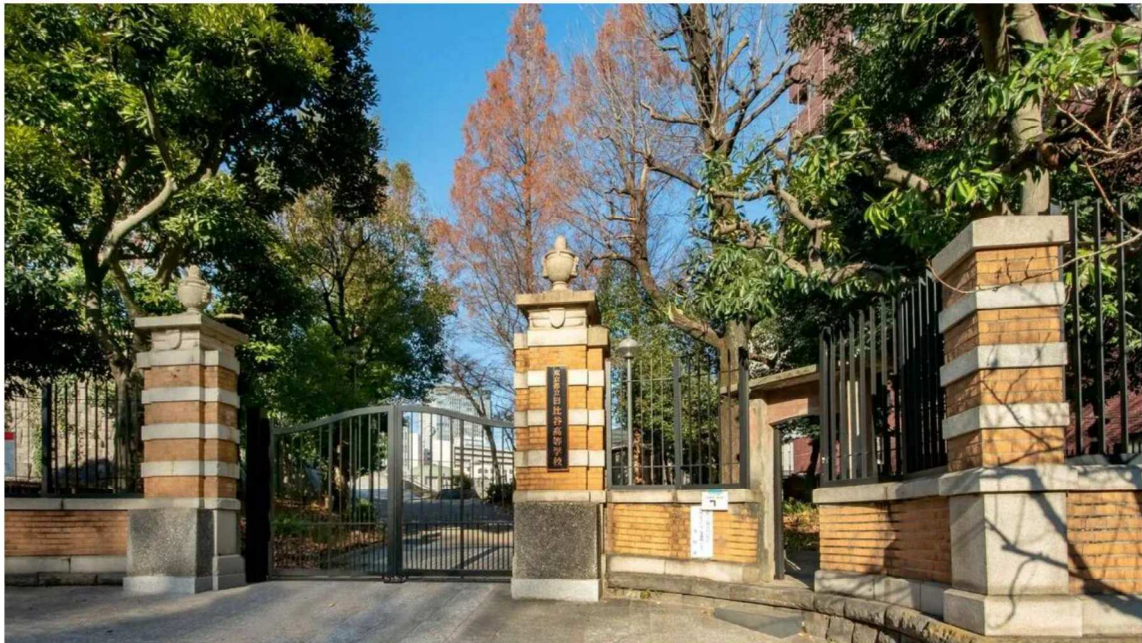
大内 裕和：武蔵大学人文学部教授 著者フォロー

2022/09/15 5:40

シェア 697

一覧

印刷 A A



来年の都立高校入試を数カ月後に控え、現場は大紛糾しています（写真：Caito / PIXTA）

「身の丈に合わせて頑張る」

3年前、大学入学共通テストへの民間試験の導入が紛糾。当時の萩生田光一元文部科学相による受験生への失言の末に見送られた。記憶にある人も少なくないのではないだろうか。

今、同じような騒動が、来年2月に行われる都立の高校入試を舞台に起きつつある。

いったい何が起きているのか。この問題に詳しい武蔵大学の大内裕和教授が、その焦点について詳しく解説する。

### 都立高入試に新導入の「英語テスト」の波紋

来年度からの都立高入試の重要な変更について、その問題点が最近知られるようになり、中学3年生と親、また教育現場に大いに動揺が広がっています。

具体的には、東京都教育委員会が、**都立高校入試に「ESAT-J（イーサット・ジェイ）」という「前受けテスト」の導入を進めることにした**のです。

これは**タブレットを使ったスピーキングテスト**です。タブレットに向かって話しかける、ちょっと特徴的な内容です。**東京都内の公立中学校3年生を対象とし、11月27日に行われます。**

そして、**都立高校の入試にこのESAT-Jのテストの点が、総合得点の一部として加算されることになりました。**

これにはいくつも問題点はあるのですが、ここでは受験生の合否に直結することを取り上げてご説明します。

→ 次ページ 受験者全員が必須でなく、不受験者にも点数がつく



#### 関連記事

暗記だけで数学を乗り切った学生の悲しい末路

公立の数学の授業を見て感じた「悲惨さ」の正体

「親が貧しい子」は勉強でどれだけ不利なのか

「地方の高校」にあえて進学する子どもの心情

「大学付属校」の内部進学がズルく見える理由

センター試験の「後釜」に不安が募りすぎる理由

#### 特集一覧



» 特集一覧はこちら

# 大紛糾の「都立高校入試」乱暴すぎる改革の中身

「有利な人」「不利な人」を生む驚きのカラクリ

大内 裕和：武蔵大学人文学部教授 著者フォロー

2022/09/15 5:40

シェア 697

一覧

印刷 A A

もっとも懸念されるのは、この前受けテストを受けない「不受験者」の扱いです。

実は、「ESAT-J」は受験者全員に必須とされているわけではありません。**事実上必須とされているのは都内の公立中に通う生徒のみで、それ以外の生徒は不受験でも構いません。**

つまり、**同じ受験生の中でスピーキングテストを受けなければならない生徒（都内公立中の生徒）と、受けるか受けないか選べる生徒（それ以外の生徒）に分かれます。**都内公立中の生徒に、原則として選択権はありません。

## 特殊すぎる「不受験者」の点のつけ方

問題は、その場合の「不受験者」の点のつけ方です。

もし受けない場合、**不受験者の点数は、「他の受験生の点数から算出される」**ことが決まっています。

具体的には、2月に行われる本番の学力検査の「英語の筆記、リスニングテストの合計点」が「同じ得点」、あるいは「前後の得点」をとった「他の受験生のESAT-J（スピーキングテスト）の点数」を複数用いて、その平均点によって決められるのです。

つまり合否に関わる**自分の点数が、自分と同じ得点、あるいは「前後の得点」をとった「他の受験生のスピーキングテストの点数」によって決まる**という、**極めて特殊な点のつけ方**なのです。

もし、お子さんが何らかの理由で11月の前受けテストを受験しない場合を

考えてみてください。2月の本番で、算出のもとになる他の受験生のESAT-Jの点数がよければ、ラッキー。あなたのお子さんは、不受験にもかかわらず高得点がもらえます。

しかし、逆もあります。算出のもとになる他の受験生のESAT-Jの点数が、たまたま悪かったら？ あなたのお子さんの点数も、同じように低くなってしまうのです。

高得点をとっても、算出のもとになる受験生たちが「たまたまスピーキングが苦手」であれば、点数は低くなります。一方、当日の得点が低くても、算出のもとになる受験生たちが「たまたまスピーキングが得意」であれば、点数は高くなります。

つまり「**運次第**」ということです。

→ 次ページ 都内と都外の受験者で、勉強に充てる時間に差も生じてくる



#### 関連記事

暗記だけで数学を乗り切った学生の悲しい末路

公立の数学の授業を見て感じた「悲惨さ」の正体

「親が貧しい子」は勉強でどれだけ不利なのか

「地方の高校」にあえて進学する子どもの心情

「大学付属校」の内部進学がズルく見える理由

センター試験の「後釜」に不安が募りすぎる理由

#### 特集一覧



» 特集一覧はこちら

# 大紛糾の「都立高校入試」乱暴すぎる改革の中身

「有利な人」「不利な人」を生む驚きのカラクリ

大内 裕和：武蔵大学人文学部教授 著者フォロー

2022/09/15 5:40

シェア 697

一覧

印刷 A A

受けないテストの点を、他人の点から算出して決められる。そしてそれが、都立高校の合否判定に使われる。到底、公平とはいえないものがあります。

## トップ校は、不受験者のほうが有利？

「そんなことを言っても、不受験者なんてほんの一部でしょ？」

そう思われる方もいるかもしれません。

しかし、そんなことはありません。**日比谷、西などのトップの都立高校は不受験者が多くなるのではと予想**されています。とくに日比谷の場合には、不受験者が3桁に届くのではないかと懸念の声も出ています。

日比谷などのトップ校は、都内の国立中や中学受験をして私立中に通っている生徒、また都外の受験者も多いことで知られています。

神奈川、千葉、埼玉はもとより、入学のために母子で遠方から引っ越してくる家庭もあります。帰国子女や、私立中に通う「受験再チャレンジ組」まで含めると、都立トップ校の受験生の出身中学はさまざまです。

これらの生徒は、都内の公立中学で実施されるESAT-Jを受けなければならないという決まりはありません。するとどうなるか。

受験が必須である**都内の公立中に通う生徒が、ESAT-Jの練習に時間をとられる中、それ以外の生徒は、限られた時間を「日比谷対策」「西対策」にがつつり充てるという選択もできる**のです。

そして不受験者にとってはありがたいことに、日比谷などのトップ校を受

ける生徒のESAT-Jの点数は、高得点に収まることが予想されます。ですから、**自分が不受験であっても、高得点をもたらえる可能性が高い**わけです。

一方、都内の公立中に通い、授業などでESAT-Jの練習を組み込まれる生徒は、ESAT-Jを受ける流れにのみ込まれるわけですが、当然ながら、失敗したら一大事です。自分だけ受けない、とも言えず、必死でESAT-Jの練習をするしかないわけです。

「つまり、うちの子がESAT-J対策を頑張ると、不受験者にいい点を与えることになるんですか？」

そうなのです。とくにトップ校を受ける子は、必死でESAT-Jの練習をしています。しかし不受験者はそのおかげで、受けずともいい点をもたらえる可能性が高まるのです。

ここがいちばん親御さんが驚き、怒りを表すところです。

→ 次ページ **なぜか英語のスピーキングの比重だけが大きい**



#### 関連記事

**暗記だけで数学を乗り切った学生の悲しい末路**

**公立の数学の授業を見て感じた「悲惨さ」の正体**

**「親が貧しい子」は勉強でどれだけ不利なのか**

**「地方の高校」にあえて進学する子どもの心情**

**「大学付属校」の内部進学がズルく見える理由**

**センター試験の「後釜」に不安が募りすぎる理由**

#### 特集一覧



» [特集一覧はこちら](#)

# 大紛糾の「都立高校入試」乱暴すぎる改革の中身

「有利な人」「不利な人」を生む驚きのカラクリ

大内 裕和：武蔵大学人文学部教授 著者フォロー

2022/09/15 5:40

シェア 697

一覧

印刷 A A

来年の入試では、トップ校においてESAT-J不受験者が多く合格するということが起こってもおかしくはありません。

## 英語のスピーキングが得意な子以外は、みんな不利

このほかにも大きな問題があります。英語のスピーキングが得意な子以外、この入試「改革」が不利に働くからです。

都立高校には、入試の点数のほかに通知表の点数である「調査書点（内申点）」が加算されます。

この調査書点の点数は、通知表の点数に一定の係数をかけて、英数国理社のそれぞれの最高得点が約23点になるように計算されます。**ESAT-Jの点数も、満点を20点として「調査書に記載される点数」として算入されます。**

つまりこれまでの入試に比べて、**英語の配分が20点多くなる**のです。

単純に考えれば、スピーキングは「英語の4技能」のうちの1つですから、調査書点の「英語 23点」のうちの4分の1を占めていると考えられます。授業でもスピーキングは行われていますし、テストもあります。

それなのになぜか、**スピーキングだけ二重に点数が計上される**ことになります。**それも満点が20点というかなり重い点数としての加算**です。

入試の判定における英語、とくにスピーキングの比重が大きくなってしまえば、ほかの科目が得意な子は不利になります。数学が、国語が、理科が、社会が得意な子は、不利になるのです。英語が得意な子であっても、スピーキングが苦手なら、状況は同じです。

これについて東京都教育庁から、英語のスピーキングの比重だけ大きいことに対する合理的な説明がなされたことは、これまで一度もありません。

## 都内でも地域格差がくつきり

3年前の大学受験の民間テストと違うのは、一見すると金銭的な自己負担がない、ということです。大学入試では複数の民間試験が採用され、かつそれがすべて自己負担だったために、大きな批判につながりました。

今回はテストの運営はベネッセ1社であり、税金で行われるために、表向き各家庭の自己負担はありません。税金が民間企業1社に流れるという問題はあるものの、お財布からテスト代が消えることはないわけです。

ただ、ESAT-Jは、ベネッセが主催するGTEC（ジーテック）というテストに、問題が類似しています。そのため、塾で対策問題を練習する子も出ています。大学受験と同じく、このような直接的な経済格差の問題が、今回もあることは否定できません。

しかし、それ以上に懸念されるのは、東京都内でGTECを実施している中学校と、していない中学校があるということです。

→ 次ページ 公平性が求められる入試において「格差」が反映される可能性



### 関連記事

暗記だけで数学を乗り切った学生の悲しい末路

公立の数学の授業を見て感じた「悲惨さ」の正体

「親が貧しい子」は勉強でどれだけ不利なのか

「地方の高校」にあえて進学する子どもの心情

「大学付属校」の内部進学がズルく見える理由

センター試験の「後釜」に不安が募りすぎる理由

### 特集一覧



## 大紛糾の「都立高校入試」乱暴すぎる改革の中身

「有利な人」「不利な人」を生む驚きのカラクリ

大内 裕和：武蔵大学人文学部教授 著者フォロー

2022/09/15 5:40

シェア 697

印刷 A A

2022年9月現在で、中学校でGTECを行っているのは、練馬区、目黒区、渋谷区、品川区、足立区、台東区、多摩市、町田市、福生市の9つの地域。**これ以外の40の市区町村では、GTECは行ってはいません。**

タブレットに向かって話しかける形のESAT-Jのようなテストは、その形式に慣れることが大切です。同程度の英語の実力であっても、テストの問題形式に慣れているかどうかで、点数には大きな差がつきます。

都内の中学生全員が、GTECで練習できているならまだわかります。しかし**練習できる9の自治体と、していない40の自治体がある。これは不公平**です。

都立高校は、市区町村を越えた生徒が受験をします。公平性が最も求められる入試において、塾で対策ができるできないという経済格差に加えて、地域格差までが成績に反映される可能性が含まれているのです。

しかし、ここまで述べたことは、保護者や受験生にきちんと説明されたことはありません。中学校の先生や合否判断をする都立高校の先生も、詳しいことは知らされていないのです。そのため、渦中の受験生や保護者は、何がどうなるかわからない不安の中に放置されています。

仮にも公のテストに新しい方法を持ち込むのであれば、説明責任を果たすことは行政として当然のことではないでしょうか。

### 全国に及ぶ可能性も？

ここまで読んでこられて、「東京は大変、うちは関係なくてよかった」と思われた方もいるかと思います。しかし今回、このESAT-Jが行われ、それ

が都立入試に反映されるようなことになれば、都立高校入試だけでなく、その影響は全国の公立高校入試に及ぶ可能性は大いにあります。

入試の合否が「運」で決まる、受験者に皺寄せがいく、英語のスピーキング以外を頑張っている子が不利になる、経済格差や地域格差がある――。

今、頑張っている受験生はもちろん、未来の受験生のためにも、今回の「改革の中身」を、もっと広く議論する 때가来ているのではないのでしょうか。

(構成：黒坂真由子)

→ [大内 裕和さんの最新公開記事をメールで受け取る \(著者フォロー\)](#)



#### 関連記事

暗記だけで数学を乗り切った学生の悲しい末路

公立の数学の授業を見て感じた「悲惨さ」の正体

「親が貧しい子」は勉強でどれだけ不利なのか

「地方の高校」にあえて進学する子どもの心情

「大学付属校」の内部進学がズルく見える理由

センター試験の「後釜」に不安が募りすぎる理由

#### 特集一覧



» [特集一覧はこちら](#)

トピックボード

AD